

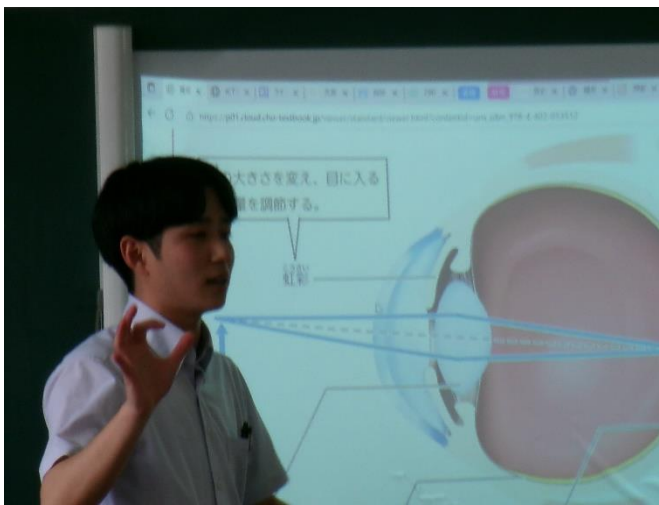
学校探訪レポート

～先生は、みんなのパーソナルトレーナー！寄り添う授業の工夫を見つけました～

校長 古閑 龍太郎

子どもたち一人一人の個性に寄り添う「パーソナルトレーナー」としての顔を持つ先生。それと同時に、子どもたちの「なぜ?」「どうして?」を鮮やかに引き出す「優れた仕掛け人」でもあります。今回は、2年2組で行われた理科の授業(西田楽登先生)を参観しました。身近な題材から始まり、最後にはバラバラだった知識が美しい一本の線に繋がっていく、見事なプロの職人技をご紹介します!

◆ 身近な「おや?」を仕掛ける、豊富な引き出し



西田先生の授業は、子どもたちの身近にある「驚き」でいっぱいです。教室のスクリーンに映し出されたのは奇妙な図形。西田先生が仕掛けた「錯視(目の錯覚)」の導入です。「動いていないのに動いているように見える!」「違う色で見たのに、近くで見ると同じ色だ!」と、子どもたちからは一瞬で驚きの声が上がりました。ドキドキする導入から始まり、お互いの目の色をのぞき込んで観察したり、普段は気づかない「盲点(見えない部分)」を実際に探す実験をしたり……。

教科書の文字をただ暗記するのではなく、自分の身体を使って「本当だ!」と体験できる工夫が次々と飛び出します。子どもたちは、先生が繰り出す身近な謎解きに終始ワクワクしながら、生き生きと授業に引き込まれていました。

◆ 圧巻の構造化!バラバラの驚きが「ひとつの形」に繋がる心地よさ

西田先生のすごさは、楽しい実験の引き出しの多さだけではありません。これらの体験は、最後の「構造的な理解」へ向かうために綿密に計算された伏線でした。授業の終盤、先生が黒板に「刺激を受け取ってから脳に伝わるまでの流れ」を分かりやすく書くと、子どもたちの頭の中でバラバラだった知識がカチッと音を立てて結びつきました。「あ、だからさっき目に見えない場所(盲点)があったんだ!」「脳が判断しているから錯覚が起きるんだ!」と、子どもたちの表情が次々と「納得の笑顔」に変わっていきました。ただ暗記するのではなく、仕組みとして知識を深く獲得していくこの心地よさは、子どもたちにとって大きな学ぶ喜びとなったはずです。

◆ おわりに

ただ知識を教え込むのではなく、子どもたちが自ら「あ、繋がった!」という学ぶ喜びを味わえるよう、裏側でたくさんの仕掛けを準備してくださっている西田先生。子どもたちの知的好奇心を育てる温かい情熱に、心から感謝いたします。いつも本当にありがとうございます!